信州学「信州の蚕糸業とシルクロード」講座第2回

なぜ信州は蚕糸王国になったのか
～気候と気質が生んだ日本一～

2016年10月6日(木)19:00～

長野大学

市川正夫

信州学ってなに

『県歌　信濃の国』を参考にしてみる

一番「信濃の国は十州に・・」

二番「四方に聳ゆる山々は・・」

三番「木曽の谷には真木茂り・・」、

「・・蚕飼の業の内ひらけ・・」

四番「・・くる人多き筑摩の湯・・」

五番「旭将軍義仲も・・」

六番「・・夢にこゆる　汽車の道・・」

・面積が広く、山や峠、河川で隔てられた信州が一つにまとまるためには自負とアイデンティティ、協調性が必要である。この歌は作詞されたのは明治32年で長野県ができて以来分県論・移庁論がありそれを克服するためや、現在の信州を学ぶにはなくてはならないものである。信州学とは自分の知らない信州を知り理解し、認めることではないだろうか。それを信州の子どもたちに受け継いでもらうのは我々の義務と考える。

ところで信州と信濃の違いとは

1 信濃とはシナノノクニは七世紀後半(六世紀説もあり)には成立し、当初は科野
　木簡、古事記、日本書紀に書かれている
2 信州とは信濃国の略語・別称
　鎌倉時代、禅宗の僧侶により使用された
3 1970年代のディスカバリージャパンのキャン
　ペーンで長野県は「さわやか信州」で全国区

長野県の養蚕業・製糸業は

・長野県の桑園面積

1887年(明治20)1万3000町歩
1890年(同23)　2万町歩
1896年(同29)　2万5000町歩
1904年(同37)　3万町歩
1908年(同41)　4万町歩

・長野県の養蚕戸数

1887年(明治21)　9万3103戸(全農家の47%)
1912年(同45)　12万4339戸(同62%)
※養蚕の収入が米を上回る

・長野県の全国に占める繭生産量

1885年(明治18)15%
1895年(同28)　21%(ピーク時)
1953年(昭和28)まで16%代を維持

Ⅰ　なぜ長野県の生糸が日本の輸出を支えたのか

①1872年(明治5)上諏訪村の大深山製糸場の座繰り製糸から始まる。それから数年で効率の良い器械製糸に転換

②製糸トラストの増加。揚返しなど最終工程を共同化して品質の統一化をはかる。さらに生糸の統一出荷。

③動力源の変化

④鉄道の開通

⑤気候・地形条件

Q1　なぜ日本一の電力供給

①明治後期の1898年長野市の裾花川に茂菅発電所を設け、電灯事業として始まる

②大正期には信濃電気など15の電力供給事業所で都市部で電力供給した。長野県は大正期から昭和初期まで国内最大。

③養蚕・製糸業とともに発展。

器械製糸の動力源の変遷

水車→石炭を燃焼させる蒸気機関→電気

第一次大戦後の1913年、竜丘生産組合は新川に発電所を建設するのに製糸家から援助

Q3 なぜ製糸家が鉄道と銀行をつくったのか

①1888年(明治21)信越線は上田～軽井沢間の開通で田中停車場から丸子の依田社などの生糸が横浜へ

②1893年(同26)高崎～直江津間の信越本線全通(軽井沢・上田・長野)

③1895年(同28)信越線の大屋停車場が諏訪の製糸家による援助で開設 。 諏訪→和田峠→丸子→大屋駅→東京・横浜（輸出港）

④1900年(同33)篠ノ井線の開通

⑤1906年塩尻まで中央東線により 諏訪から横浜まで直接運搬が可能。西条炭(蒸気機関の燃料)が岡谷・諏訪に運搬

⑥1911年(明治44)新宿～名古屋間の中央本線全通(諏訪・岡谷)

⑦1916年(大正5)片倉組による信濃鉄道(松本～大町)が開通

⑧六十三銀行・十九銀行（八十二銀行の前身）をはじめ、県下100を越える銀行が設立し、養蚕農家や製糸家に融資したり自前で銀行をつくった

Q2　包蔵水力日本一と二位はどこ

※包蔵水力とはその河川で水力発電が可能なエネルギー量

1位は木曽川水系　11,293Gwh(2009)

- 豊富な水量と急流が多い
- 福澤桃介(日本の電力王、関西電力)の大同電力が1923年(大正12)に読書ダム(南木曽町)等建設

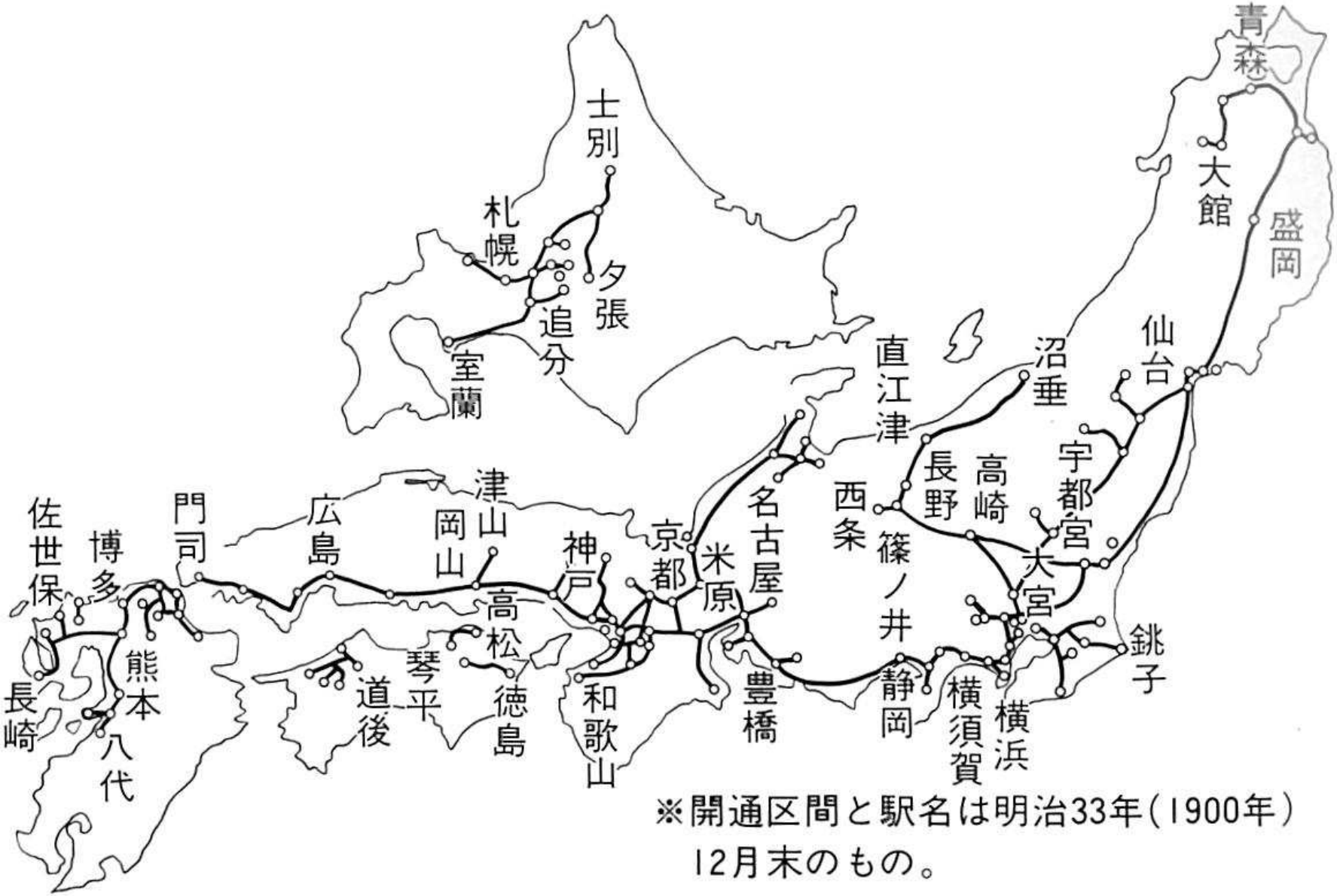
2位は信濃川水系　11,062

5位は天竜川　6,503

福澤桃介
1868-1938年
インターネットから

南木曽町の読書発電所
インターネットから

明治33年の全国鉄道地図

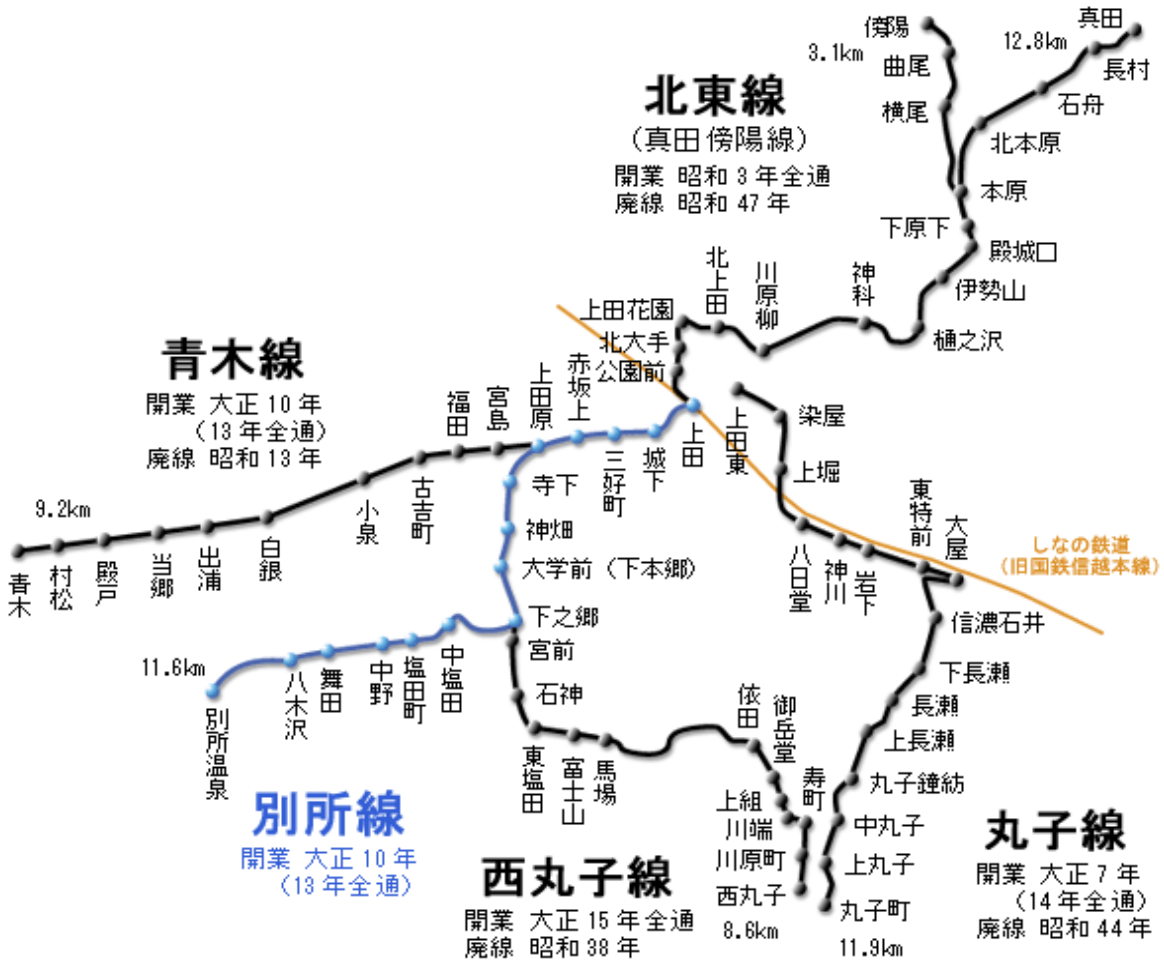


※開通区間と駅名は明治33年(1900年)
12月末のもの。

Q4 なぜ上小地方に私鉄が多かったのか

①製糸業のため
1918年(大正7)丸子鉄道開業[大屋(後に上田東)～丸子]
信越線の大屋駅は丸子と諏訪地方の繭と生糸輸送
②製糸業・観光のため
1921年 上田温泉電軌鉄道開業(三好町～上田原～青木)
青木村の国宝大法寺
③観光・信仰・湯治のため
1921年 別所線開通 (三好町～信濃別所)
別所温泉、北向観音、安楽寺八角三重塔、常楽寺
1925年 上田電鉄軌道丸子線(西丸子線)開通
④人の移動のため
1928年 真田・傍陽線開通 (上田～真田、上田～傍陽)
※ なお実現しなかったが丸子から諏訪地方、丸子から松本までの計画もあった。

上田市にあった私鉄


北東線
（真田傍陽線）
開業 昭和 3 年全通
廃線 昭和 47 年
傍陽
3.1km
曲尾
横尾
真田
12.8km
長村
石舟
北本原
本原
下原下
殿城口
伊勢山
樋之沢
神科
川原柳
北上田
上田花園
北大手
公園前
上田東
染屋
上堀
東特前
大屋
しなの鉄道
（旧国鉄信越本線）
信濃石井
下長瀬
長瀬
上長瀬
丸子鐘紡
中丸子
上丸子
丸子町
11.9km
丸子線
開業 大正 7 年
（14 年全通）
廃線 昭和 44 年
八日堂
神川
岩下
上田
城下
三好町
赤坂上
上田原
寺下
神畑
大学前（下本郷）
下之郷
宮前
石神
東塩田
富士山
馬場
依田
御岳堂
寿町
上組
川端
川原町
西丸子
8.6km
西丸子線
開業 大正 15 年全通
廃線 昭和 38 年
福田
宮島
古吉町
小泉
白銀
出浦
当郷
殿戸
村松
青木
9.2km
青木線
開業 大正 10 年
（13 年全通）
廃線 昭和 13 年
別所温泉
八木沢
舞田
中野
塩田町
中塩田
11.6km
別所線
開業 大正 10 年
（13 年全通）

Q5 養蚕に適した気候・地形とはなにか

1 長野県は降水量が少ない寡雨地域で乾燥

・北海道北見市常呂(ところ)町 **700.4mm**

・上田市**890.8**

・長野市**932.7**

2 山がちのため平野が少なく傾斜地が多い

結論

<u>桑や果樹栽培の適地</u>

・日当たりがよい

・根に水が多く浸透しない

岡谷市の宮坂製糸場座繰器械製糸

岡谷市の宮坂製糸場座繰器械製糸の糸繰機

座繰器械製糸のガラ紡に糸を巻く

Ⅱ　どう養蚕不況から転換したか

大正期の生糸の価格暴落や昭和初期の
大恐慌などで養蚕・製糸業の衰退からの転換

①大正期、養蚕からりんご栽培へ
②大正末期、製糸業から味噌醸造業へ
③第二次大戦後は電気機械製造業へ

Q1　なぜりんご栽培か

養蚕の衰退がリンゴ栽培の増加

明治末期から大正期にかけて交通網の整備

信越線（1893）・篠ノ井線（1902）

中央東線（1906）・中央西線（1911）

大消費地までりんごが出荷可能

↓

1920年頃から第一次大戦後の好景気から

養蚕不況で桑園からりんご園へ

↓

1930年の昭和恐慌で大幅にりんご園への転換

長野市共和のりんご園

Q2　なぜ味噌醸造か

① 1923年の関東大震災で東京の味噌工場が壊滅。東京は日本最大の味噌生産地であり、味噌工場も被害。

②諏訪の製糸工場における女工の給食用味噌を援助物資として送り、信州味噌の評判が上がる。

③当時、経済不況により製糸業が衰退する中で、製糸業から味噌醸造業に転換

④1950年長野県味噌工業組合が原料購入から出荷まで共同で成功

⑤信州味噌のブランド化をはかり、全国一の生産となる

長野県味噌工業協同組合連合会121社、年間19万トン

全国の46%(2011年)

神州一味噌
諏訪市上諏訪
インターネットから

Q3　なぜ工業か

太平洋戦争後、諏訪地方は製糸業が衰退し、

失業者対策として工場誘致が急務

1971年松本・諏訪地区新産業都市指定

①セイコーエプソンの前身である諏訪精工舎は諏訪の時計部品メーカーから、現在時計以外のプロジェクター 、プリンターの世界的に

②茅野市の東洋バルブは製糸機械のバルブから

③三協精機、ヤシカ、チノンは精密機械メーカーへ

大和(だいわ)工業が1942年設立
現諏訪市大和(おわ)

諏訪市のセイコー・エプソン本社
インターネットから

信州人ってどんな人
信州ってどんなところ

1 江戸期幕末、日本一の寺子屋の数

信濃1,341　日本15,506

地域や保護者が勉強熱心か、山国信州、産業不足

2 明治期から新しいものに挑戦するチャレンジ精神

製糸業や養蚕、りんご栽培、電気機械製造業等

半面、産業遺産が少ない(中でも製糸業関係)

まとめ

過去を知り現代に活かす取り組みとして

<u>蚕糸業が最適</u>